

解答・解説

演習問題A

～登録項目確認編～

登録対象

★やってみましょう＜登録対象＞

解答

解説

	確 認 問 題	回 答
ア	自施設で乳癌と診断し、他施設へ紹介。 他施設で乳癌の手術と化学療法が行われた。	1.登録対象 自施設で乳癌と診断していますので登録対象です。
イ	他施設で白血病と診断され、化学療法し寛解となった。 寛解後の化学療法を自施設で行うため、転院となった。	1.登録対象 自施設で継続治療をしていますので登録対象です。
ウ	糖尿病で通院中の患者に、前立腺癌の既往があった。 前立腺癌の治療は、診断された他院で行っている。	2.登録対象外 自施設では前立腺癌の診断/治療を行っていないので、登録対象外です。

登録対象

★やってみましょう＜登録対象＞

解答

解説

	確 認 問 題	回 答
エ	がんの既往があり、療養のため自施設へ入院した。その方が自施設で亡くなり、死亡診断書に「がん」の病名がついた。	2.登録対象外 がんの既往のみで、がんの診断/治療をしていませんので、登録対象外となります。※
オ	他施設でがんと診断後、看取りの目的で自施設へ紹介された。	1.登録対象 「看取り」は、がんに対して積極的な治療を行わず経過観察をすることです。登録対象となります。
カ	がんの疑いがあり、他施設で生検した。自施設には他疾患で入院中に、「がんと確定した」と連絡があった。自施設では他疾患の治療はしたが、がんの治療はせず、緩和ケアのある施設へ紹介した。	2.登録対象外 自施設では「がんの疑い」、他施設でがん確定後も、自施設ではがんに対して治療をしていませんので、登録対象外となります。

※本来は、がんを診断/治療した医療機関が届出を行いますので、既往のみ、死亡診断のみの場合は、届出は不要です。しかし、その届出が行われなかった場合、死亡診断書を発行した医療機関に調査を依頼するため（遡り調査）、調査を依頼された医療機関は診療録をさかのぼって登録をしなければなりません。その手間を省くため、「がんでの死亡を診断した」との解釈で、登録対象としていただいてもかまいません。

来院経路と発見経緯

★やってみましょう＜来院経路と発見経緯1＞

解答

解説

下血があり自施設を受診。

下部消化管内視鏡にて直腸に腫瘍を認めたため、生検施行。

高分化腺癌の診断。次回外来予約するも、その後来院なし。

考え方)

来院経路：症状(下血)があり、自ら自施設受診

発見経緯：症状(下血)があり、病院を受診し、「がん」と診断

解 答)

⑮ 発見経緯・・・8.その他

1. がん検診・健康診断・人間ドックでの発見例
3. 他疾患の経過観察中の偶然発見
4. 剖検発見
8. その他
9. 不明

自覚症状による
受診を含みます

来院経路と発見経緯

★やってみましょう＜来院経路と発見経緯2＞

解答

解説

健康診断で肝腫瘍を指摘された。
医療機関あての再検査の依頼状を持参で自施設受診。
CT、超音波、血液検査にて肝細胞癌と診断された。

考え方)

来院経路：自施設あての紹介状受診ではないので「自主受診」となる。

発見経緯：健康診断をきっかけに、医療機関を受診し「がん」と診断された

解 答)

⑮ 発見経緯

・・・1.がん検診・健康診断・
人間ドックでの発見例

1. がん検診・健康診断・人間ドックでの発見例
3. 他疾患の経過観察中の偶然発見
4. 剖検発見
8. その他
9. 不明

来院経路と発見経緯

★やってみましょう＜来院経路と発見経緯3＞

解答

解説

自施設で、1年前より前立腺肥大の診断で経過観察。
定期フォローアップで行ったPSAが高値のため生検を行い、
前立腺癌と診断された。

考え方)

来院経路：他疾患(前立腺肥大)の経過観察中

発見経緯：他疾患(前立腺肥大)の経過観察中に「がん」と診断された

解 答)

⑮ 発見経緯

・・・ 3. 他疾患の経過観察中の
偶然発見

1. がん検診・健康診断・人間ドックでの発見例
3. 他疾患の経過観察中の偶然発見
4. 剖検発見
8. その他
9. 不明

当該腫瘍初診日と診断日

★やってみましょう＜当該腫瘍初診日と診断日1＞ 解答

2025年 2月17日 心窩部痛で、Aクリニックを受診
2025年 2月22日 胃内視鏡を施行。びらん状の病変があり胃癌と診断
2025年 3月 6日 精査と治療目的にて、自施設紹介受診
2025年 3月17日 当院にて、内視鏡下生検施行
2025年 3月24日 生検結果で、胃体部の高分化管状腺癌と診断

当該腫瘍初診日 : 20250306

⑪ 診断施設 : 1. 自施設診断

⑭ 診断日 : 20250317

当該腫瘍初診日と診断日

★やってみましょう＜当該腫瘍初診日と診断日1＞ 解説

2025年 2月17日 心窩部痛で、Aクリニックを受診
2025年 2月22日 胃内視鏡を施行。びらん状の病変があり胃癌と診断
2025年 3月 6日 精査と治療目的にて、自施設紹介受診
2025年 3月17日 当院にて、内視鏡下生検施行
2025年 3月24日 生検結果で、胃体部の高分化管状腺癌と診断

-
- ・ 当該腫瘍初診日は、Aクリニックから紹介されて受診した日なので「20250306」です。
 - ・ 初回の治療開始前までに、他施設・自施設も含めて「がん」と診断した検査は、
 - ① Aクリニックでの内視鏡検査（肉眼的所見・5. 臨床検査）
 - ② 自施設での生検（病理組織診・1. 原発巣の組織診）
→ そのうち最も確かな検査は「生検」。
 - ・ 生検を行ったのは自施設受診後なので、⑪ 診断施設は、「1. 自施設診断」。
 - ・ ⑭ 診断日は、診断した施設が「1. 自施設診断」の場合、自施設診断日となるので、生検を行った「20250317」となります。

当該腫瘍初診日と診断日

★やってみましょう＜当該腫瘍初診日と診断日2＞

解答

2025年 2月15日 子宮がん検診で要精査により、B病院受診
同日に細胞診、組織診施行

2025年 2月21日 細胞診、組織診の結果で子宮頸癌と診断

2025年 2月28日 治療目的で自施設紹介受診。同日に細胞診と組織診施行

2025年 3月 7日 組織診の結果、子宮頸癌（高分化型扁平上皮癌）と診断

2025年 3月22日 放射線療法目的で入院

当該腫瘍初診日 : 20250228

⑪ 診断施設 : 2. 他施設診断

⑭ 診断日 : 20250228

当該腫瘍初診日と診断日

★やってみましょう＜当該腫瘍初診日と診断日2＞

解説

2025年 2月15日 子宮がん検診で要精査により、B病院受診
同日に細胞診、組織診施行
2025年 2月21日 細胞診、組織診の結果で子宮頸癌と診断
2025年 2月28日 治療目的で自施設紹介受診。同日に細胞診と組織診施行
2025年 3月 7日 組織診の結果、子宮頸癌（高分化型扁平上皮癌）と診断
2025年 3月22日 放射線療法目的で入院

- ・ 当該腫瘍初診日は、B病院から紹介されて受診した日なので「20250228」です。
- ・ 初回の治療開始前までに、他施設・自施設も含めて「がん」と診断した検査は、
 - ① B病院での細胞診（3. 細胞診）、組織診（1. 原発巣の組織診）
 - ② 自施設での細胞診（3. 細胞診）、組織診（1. 原発巣の組織診）→ そのうち最も確かな検査は「組織診」。組織診は、B病院と自施設で行われています。
最も確かな検査が同じ場合、検査日の早い方の施設（B病院）を採用します。
- ・ B病院が組織診を行ったのは、自施設受診前なので、⑪ 診断施設は、「2. 他施設診断」。
- ・ ⑭ 診断日は、診断した施設が「2. 他施設診断」の場合、当該腫瘍初診日となるので、「20250228」となります。

解答・解説

演習問題B ～症例登録編～

腫瘍の種類

⑧側性 ☐ 1.右 ☐ 2.左 ☐ 3.両側 ☒ 7.側性なし ☐ 9.不明

結腸および直腸

解答

⑨原発部位 大分類 盲腸・結腸、直腸、肛門

詳細分類 C18.6 下行結腸

⑩病理診断 組織型・性状 8140/2 上皮内腺癌

診断情報

⑪診断施設 ☒ 1.自施設診断 ☐ 2.他施設診断

⑫治療施設 ☐ 1.自施設で初回治療をせず、他施設に紹介またはその後の経過不明
☒ 2.自施設で初回治療を開始
☐ 3.他施設で初回治療を開始後に、自施設に受診して初回治療を継続
☐ 4.他施設で初回治療を終了後に、自施設に受診
☐ 8.その他

⑬診断根拠 ☒ 1.原発巣の組織診 ☐ 2.転移巣の組織診 ☐ 3.細胞診
☐ 4.部位特異的腫瘍マーカー ☐ 5.臨床検査 ☐ 6.臨床診断 ☐ 9.不明

⑭診断日 ☒ 0.西暦 ☐ 1.明 ☐ 2.大 ☐ 3.昭 ☐ 4.平 ☐ 5.令 2025 年 12 月 9 日

⑮発見経緯 ☒ 1.がん検診・健康診断・人間ドックでの発見例 ☐ 3.他疾患の経過観察中の偶然発見
☐ 4.剖検発見 ☐ 8.その他 ☐ 9.不明

進行度

結腸および直腸

解答

⑩進展度・治療前

- ☐ 400.上皮内 ☐ 410.限局 ☐ 420.領域リンパ節転移
☐ 430.隣接臓器浸潤 ☐ 440.遠隔転移
☐ 777.該当せず ☒ 499.不明

⑪進展度・術後病理学的

- ☒ 400.上皮内 ☐ 410.限局 ☐ 420.領域リンパ節転移
☐ 430.隣接臓器浸潤 ☐ 440.遠隔転移 ☐ 660.手術なし・術前治療後
☐ 777.該当せず ☐ 499.不明

自施設初回治療

観血的治療

⑬外科的

- ☐ 1.自施設で施行 ☒ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明

⑭鏡視下

- ☐ 1.自施設で施行 ☒ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明

⑮内視鏡的

- ☒ 1.自施設で施行 ☐ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明

⑯観血的治療の範囲

- ☒ 1.腫瘍遺残なし ☐ 4.腫瘍遺残あり ☐ 6.観血的治療なし ☐ 9.不明

その他治療

⑰放射線療法

- ☐ 1.自施設で施行 ☒ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明

⑱化学療法

- ☐ 1.自施設で施行 ☒ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明

⑲内分泌療法

- ☐ 1.自施設で施行 ☒ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明

⑳その他治療

- ☐ 1.自施設で施行 ☒ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明

㉑死亡日

- ☐ 0.西暦 ☐ 1.明 ☐ 2.大 ☐ 3.昭 ☐ 4.平 ☐ 5.令 年 月 日

備考

中分化管状腺癌、粘膜内癌 (M)、8140/22

結腸および直腸 53歳 男性

解説

2025/11/02 大腸がん検診で便潜血陽性となり
前医受診。

2025/11/10 下部消化管内視鏡検査を施行し、上行
結腸など複数個のポリープを
認めたため、治療目的に当院紹介。

2025/11/14 当院受診。
前医指摘の大腸ポリープについて、
切除することを本人に説明。

2025/12/09 内視鏡的切除術施行。

- ・ポリープ（良性腫瘍）を取る目的で手術

- ・**取ったら癌が見つかった**

- 手術が「がん」と診断した最も確かな検査
 - = 自施設受診後の検査なので、診断施設は「1.自施設
診断」、診断根拠は「1.原発巣の組織診」となる。

- 手術する前は「がん」と診断していなかった
 - = 進展度・治療前は「不明」

発見経緯: 1. がん検診・健康診断・人間ドック
での発見例

当該腫瘍初診日: 20251114

検査 <他施設>
下部消化管内視鏡検査(5. 臨床検査)
→複数個のポリープ = **良性腫瘍**

治療開始前までにした検査の中でがんと診断した「最も
確かな検査」はない = **がん（悪性）と診断していない**

診断施設: 1. 自施設診断

治療施設: 2. 自施設で初回治療開始

進展度・治療前: 499. 不明

診断根拠: 1. 原発巣の組織診

診断日 : 20251209

結腸および直腸 53歳 男性

解説

【病理報告】

①横行結腸彎曲、②盲腸、③上行結腸、
④横行結腸、⑤下行結腸、⑥直腸Rb
合計6病変が提出されています。

・①、②、③、⑥ Tubular adenoma です。

・④ Hyperplastic polyp です。
悪性の所見は認められません。

管状腺腫（良性）

過形成性ポリ
プ（良性）

・⑤ 中分化管状腺癌を認めます。
癌は3mm程です。

癌の増殖は粘膜内（M）に
留まります。

リンパ節転移、
遠隔転移につい
ては未記載＝
「なし」と考え
る

脈管侵襲は見られません。

切除断端は水平方向、垂直方向ともに陰性です。

腫瘍は取りきれた→検査として行われた
処置において、結果的に治療が完結した
場合は、当該処置を治療とみなす
＝初回治療：内視鏡的治療あり、
治療施設：自施設で治療開始

・病理報告により、⑤のみが「悪性」と判断できる。

・局在コード：C18.6 下行結腸

・形態コード：8140/2 上皮内腺癌

・進展度・術後病理学的：400. 上皮内

組織型＝管状腺癌（8211）、
進展度＝上皮内（400）のとき、
形態コード：8211/2 は存在しない
ので、上位概念の
「8140/2 上皮内腺癌」を選択する。

・内視鏡的治療：1. 自施設で施行

・観血的治療の範囲：1. 腫瘍遺残なし

腫瘍の種類

⑧側性 ☐ 1.右 ☐ 2.左 ☐ 3.両側 ☒ 7.側性なし ☐ 9.不明

甲状腺

解答

⑨原発部位 大分類 頭頸部、甲状腺

詳細分類 C73.9 甲状腺

⑩病理診断 組織型・性状 8000/3 悪性腫瘍

「8337/3 低分化癌」が選択できないので、「8000/3」を選択し、備考欄に記載する。

診断情報

⑪診断施設 ☐ 1.自施設診断 ☒ 2.他施設診断

⑫治療施設 ☐ 1.自施設で初回治療をせず、他施設に紹介またはその後の経過不明
☒ 2.自施設で初回治療を開始
☐ 3.他施設で初回治療を開始後に、自施設に受診して初回治療を継続
☐ 4.他施設で初回治療を終了後に、自施設に受診
☐ 8.その他

⑬診断根拠 ☒ 1.原発巣の組織診 ☐ 2.転移巣の組織診 ☐ 3.細胞診
☐ 4.部位特異的腫瘍マーカー ☐ 5.臨床検査 ☐ 6.臨床診断 ☐ 9.不明

⑭診断日 ☒ 0.西暦 ☐ 1.明 ☐ 2.大 ☐ 3.昭 ☐ 4.平 ☐ 5.令 2025 年 6 月 27 日

⑮発見経緯 ☐ 1.がん検診・健康診断・人間ドックでの発見例 ☐ 3.他疾患の経過観察中の偶然発見
☐ 4.剖検発見 ☒ 8.その他 ☐ 9.不明

進行度

⑩進展度・治療前

- ☐ 400.上皮内 ☒ 410.限局 ☐ 420.領域リンパ節転移
☐ 430.隣接臓器浸潤 ☐ 440.遠隔転移
☐ 777.該当せず ☐ 499.不明

⑪進展度・術後病理学的

- ☐ 400.上皮内 ☒ 410.限局 ☐ 420.領域リンパ節転移
☐ 430.隣接臓器浸潤 ☐ 440.遠隔転移 ☐ 660.手術なし・術前治療後
☐ 777.該当せず ☐ 499.不明

甲状腺

解答

自施設初回治療

観血的治療

⑫外科的

- ☒ 1.自施設で施行 ☐ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明

⑬鏡視下

- ☐ 1.自施設で施行 ☒ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明

⑭内視鏡的

- ☐ 1.自施設で施行 ☒ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明

⑮観血的治療の範囲

- ☒ 1.腫瘍遺残なし ☐ 4.腫瘍遺残あり ☐ 6.観血的治療なし ☐ 9.不明

その他治療

⑯放射線療法

- ☐ 1.自施設で施行 ☒ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明

⑰化学療法

- ☐ 1.自施設で施行 ☒ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明

⑱内分泌療法

- ☐ 1.自施設で施行 ☒ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明

⑲その他治療

- ☐ 1.自施設で施行 ☒ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明

⑳死亡日

- ☐ 0.西暦 ☐ 1.明 ☐ 2.大 ☐ 3.昭 ☐ 4.平 ☐ 5.令 年 月 日

備考

Poorly differentiated carcinoma、8337/3 甲状腺低分化癌

甲状腺 55歳 女性

解説

2025/06/06 のどにしこりを感じ心配になり、D病院受診。

2025/06/12 頸部超音波検査を施行。
甲状腺に35mm径の腫瘍を認めた。
同部で穿刺吸引細胞診施行。
甲状腺周囲リンパ節に腫大は認めない。
細胞診結果（Adenocarcinoma）等から甲状腺癌と診断。
本人の希望により、治療目的に当院紹介。

2025/06/27 当院初診。
超音波検査施行。甲状腺中央に35mm*25mm系の腫瘍あり。

2025/07/03 CT検査では、他の臓器への転移は認めなかった。
前医での検査の結果も併せ、甲状腺癌の診断。
手術を行うことを本人に説明した。

ここまでが治療前

発見経緯:8.その他(自覚症状あり)

検査 (治療開始前まで)

D病院 2025/06/12 頸部超音波(5.臨床検査)
穿刺吸引細胞診(3.細胞診)
自施設 2025/06/27 超音波検査(5.臨床検査)
2025/07/03 CT検査(5.臨床検査)

診断施設:2.他施設診断

診断日 : 20250627

診断施設が、2.他施設診断なので、診断日は、当該腫瘍初診日となる

「がん」と診断された治療開始前までの検査を、他施設での検査を含めて時系列に並べたときに、最も確かな検査が自施設受診前なので、**診断施設は2.他施設診断**となる。

進展度・治療前:410.限局
甲状腺に限局、2cm<最大径≤4cm
リンパ節転移なし
他の臓器への転移なし

甲状腺 55歳 女性

解説

2025/07/23 手術目的に入院。

2025/07/24 甲状腺全摘術施行。

2025/08/05 経過良好にて退院。
退院時、ホルモン補充療法として
チラーヂンを処方。

【病理報告＜手術＞】

Poorly differentiated carcinoma

腫瘍は35mm*23mm径の低分化癌です。
甲状腺周囲へのわずかな浸潤が認められます。

断端に癌組織は見られません。 →腫瘍は取りきれた

I : 0/3、II : 0/3、右IV : 0/3、左IV : 0/3、右
V : 0/3 →リンパ節転移なし

(リンパ節番号は取扱い規約に準ずる)

治療施設：2. 自施設で初回治療を開始

初回治療：外科的治療：1. 自施設で施行

※術後に低下する甲状腺ホルモンを補う
目的での治療は、内分泌療法とはしない。

観血的治療の範囲：1. 腫瘍遺残なし

診断根拠：1. 原発巣の組織診（手術施行）

形態コード：8337/39 低分化癌

！ 甲状腺癌の低分化癌
8020/3ではない！

局在コード：C73.9 甲状腺

側 性：7. 側性なし（側性のない臓器）

進展度・術後病理学的：410. 限局
甲状腺に限局、2cm＜最大径≤4cm
リンパ節転移なし
他の臓器への転移については未記載
なので、治療前をそのまま用いる。

腫瘍の種類

⑧側性 ☐ 1.右 ☐ 2.左 ☐ 3.両側 ☒ 7.側性なし ☐ 9.不明

皮膚

解答

⑨原発部位

大分類

皮膚

詳細分類

C44.4 頭皮及び頸の皮膚

⑩病理診断

組織型・性状

8410/3 脂腺癌

診断情報

⑪診断施設

☒ 1.自施設診断 ☐ 2.他施設診断

⑫治療施設

- ☐ 1.自施設で初回治療をせず、他施設に紹介またはその後の経過不明
- ☒ 2.自施設で初回治療を開始
- ☐ 3.他施設で初回治療を開始後に、自施設に受診して初回治療を継続
- ☐ 4.他施設で初回治療を終了後に、自施設に受診
- ☐ 8.その他

⑬診断根拠

- ☒ 1.原発巣の組織診 ☐ 2.転移巣の組織診 ☐ 3.細胞診
- ☐ 4.部位特異的腫瘍マーカー ☐ 5.臨床検査 ☐ 6.臨床診断 ☐ 9.不明

⑭診断日

☒ 0.西暦 ☐ 1.明 ☐ 2.大 ☐ 3.昭 ☐ 4.平 ☐ 5.令 2025 年 2 月 25 日

⑮発見経緯

- ☐ 1.がん検診・健康診断・人間ドックでの発見例 ☐ 3.他疾患の経過観察中の偶然発見
- ☐ 4.剖検発見 ☒ 8.その他 ☐ 9.不明

進行度

⑩進展度・治療前

- ☐ 400.上皮内 ☐ 410.限局 ☐ 420.領域リンパ節転移
☐ 430.隣接臓器浸潤 ☒ 440.遠隔転移
☐ 777.該当せず ☐ 499.不明

皮膚

解答

⑪進展度・術後病理学的

- ☐ 400.上皮内 ☐ 410.限局 ☐ 420.領域リンパ節転移
☐ 430.隣接臓器浸潤 ☐ 440.遠隔転移 ☒ 660.手術なし・術前治療後
☐ 777.該当せず ☐ 499.不明

自施設初回治療

観血的治療

⑫外科的

- ☐ 1.自施設で施行 ☒ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明

⑬鏡視下

- ☐ 1.自施設で施行 ☒ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明

⑭内視鏡的

- ☐ 1.自施設で施行 ☒ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明

⑮観血的治療の範囲

- ☐ 1.腫瘍遺残なし ☐ 4.腫瘍遺残あり ☒ 6.観血的治療なし ☐ 9.不明

その他治療

⑯放射線療法

- ☒ 1.自施設で施行 ☐ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明

⑰化学療法

- ☒ 1.自施設で施行 ☐ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明

⑱内分泌療法

- ☐ 1.自施設で施行 ☒ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明

⑲その他治療

- ☐ 1.自施設で施行 ☒ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明

⑳死亡日

- ☐ 0.西暦 ☐ 1.明 ☐ 2.大 ☐ 3.昭 ☐ 4.平 ☐ 5.令 年 月 日

備考

C44.4右頭頂部皮膚、Sebaceous carcinoma、
脳転移に対しガンマナイフ施行

皮膚 63歳 女性

解説

2025/02/25 右頭頂部に皮疹ができて大きくなったので、当院受診。

2025/02/25 当院初診。
生検施行→Sebacous carcinoma

頭部CT：45mm大の潰瘍を伴う隆起性腫瘤、
原発巣は骨まで浸潤、
左前頭葉に26mm大の結節、転移性脳腫瘍

胸部CT：右側腋窩（1cm径）、リンパ節に転移

→診断&治療方針：頭皮にできた癌で、
①脳転移に対しての治療（ガンマナイフ）を
優先して施行
②化学療法を行う } 手術はしていない

2025/03/12 ガンマナイフ施行 →放射線療法

2025/03/17 化学療法開始

局在コード：C44.4頭皮及び頸の皮膚
側性：7.側性なし（側性のない臓器）
発見経緯：8.その他（自覚症状あり）

検査 生検（1.原発巣の組織診）→脂腺癌 8410/3
頭部CT（5.臨床検査）
胸部CT（5.臨床検査）

診断根拠＝患者の全経過を通じてがんと診断した最も確かな検査

進展度・治療前
潰瘍≧4cm、骨まで浸潤→430.隣接臓器浸潤
転移性脳腫瘍→440.遠隔転移
同側（右）・単発・リンパ節転移≦3cm
→420.領域リンパ節転移

診断日 2025/02/25

初回治療 放射線療法 1.自施設で施行
化学療法 1.自施設で施行
観血的治療の範囲 6.観血的治療なし

進展度・術後病理学的 660.手術なし又は術前治療後

腫瘍の種類

⑧側性 ☐ 1.右 ☐ 2.左 ☐ 3.両側 ☒ 7.側性なし ☐ 9.不明

子宮頸部

解答

⑨原発部位 大分類 子宮頸部・膣

詳細分類 C53.9 子宮頸部

⑩病理診断 組織型・性状 8077/2 扁平上皮内腫瘍、高異型度

診断情報

⑪診断施設 ☒ 1.自施設診断 ☐ 2.他施設診断

⑫治療施設 ☐ 1.自施設で初回治療をせず、他施設に紹介またはその後の経過不明
☒ 2.自施設で初回治療を開始
☐ 3.他施設で初回治療を開始後に、自施設に受診して初回治療を継続
☐ 4.他施設で初回治療を終了後に、自施設に受診
☐ 8.その他

⑬診断根拠 ☒ 1.原発巣の組織診 ☐ 2.転移巣の組織診 ☐ 3.細胞診
☐ 4.部位特異的腫瘍マーカー ☐ 5.臨床検査 ☐ 6.臨床診断 ☐ 9.不明

⑭診断日 ☒ 0.西暦 ☐ 1.明 ☐ 2.大 ☐ 3.昭 ☐ 4.平 ☐ 5.令 2025 年 4 月 24 日

⑮発見経緯 ☒ 1.がん検診・健康診断・人間ドックでの発見例 ☐ 3.他疾患の経過観察中の偶然発見
☐ 4.剖検発見 ☐ 8.その他 ☐ 9.不明

進行度

⑩進展度・治療前

- ☒ 400.上皮内 ☐ 410.限局 ☐ 420.領域リンパ節転移
☐ 430.隣接臓器浸潤 ☐ 440.遠隔転移
☐ 777.該当せず ☐ 499.不明

子宮頸部

解答

⑪進展度・術後病理学的

- ☒ 400.上皮内 ☐ 410.限局 ☐ 420.領域リンパ節転移
☐ 430.隣接臓器浸潤 ☐ 440.遠隔転移 ☐ 660.手術なし・術前治療後
☐ 777.該当せず ☐ 499.不明

自施設初回治療

観血的治療

⑫外科的

- ☒ 1.自施設で施行 ☐ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明

⑬鏡視下

- ☐ 1.自施設で施行 ☒ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明

⑭内視鏡的

- ☐ 1.自施設で施行 ☒ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明

⑮観血的治療の範囲

- ☒ 1.腫瘍遺残なし ☐ 4.腫瘍遺残あり ☐ 6.観血的治療なし ☐ 9.不明

その他治療

⑯放射線療法

- ☐ 1.自施設で施行 ☒ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明

⑰化学療法

- ☐ 1.自施設で施行 ☒ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明

⑱内分泌療法

- ☐ 1.自施設で施行 ☒ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明

⑲その他治療

- ☐ 1.自施設で施行 ☒ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明

⑳死亡日

- ☐ 0.西暦 ☐ 1.明 ☐ 2.大 ☐ 3.昭 ☐ 4.平 ☐ 5.令 年 月 日

備考

HSIL/CIN3

子宮頸部 60歳 女性

解説

2025/03/26 Cクリニックにて、がん検診実施。
子宮頸部異形成の診断で当院紹介。

2025/04/07 当院婦人科を初診。
膣拡大鏡にて2cmの病変
細胞診→ Squamous cell carcinoma
陽性

細胞診で異常
が出たために
組織診もする
ことに

超音波検査では異常所見なし。

2025/04/24 子宮頸部円錐切除術実施。
結果→上皮内癌
腫瘍も取りきれている。
今後は外来で経過観察

【病理報告】 HSIL/CIN3
腫瘍は2*1cmで上皮内にとどまっ
ている。切除断端 (-)

“HSIL” “CIN2”のみ
では登録対象外。

発見経緯：1. がん検診
局在コード：C53.9子宮頸部
側 性：7. 側性なし（側性のない臓器）

検査 膣拡大鏡（5. 臨床検査）…2cm病変あり
細胞診（3. 細胞診）… 扁平上皮癌 陽性
超音波（5. 臨床検査）…異常なし
子宮頸部円錐切除術（1. 原発巣の組織診）

診断施設：1. 自施設診断
治療施設：2. 初回治療を開始
診断日：20250424
診断根拠：1. 原発巣の組織診
外科的治療：1. 自施設で施行

自施設受診日以降に癌
と診断した検査を施行
した

検査として行われた処置で腫瘍を取りきれたので、検査だが治療
としても扱う。よって、その検査が「治療開始前までにがんを診
断された最も確かな検査」で「患者の全経過を通じて最も確かな
検査」なので、診断根拠となる。

形態コード：8077/2 扁平上皮内腫瘍、高異型度
進展度・治療前：400. 上皮内
進展度・術後病理学的：400. 上皮内
観血的治療の範囲：1. 腫瘍遺残なし

腫瘍の種類

⑧側性 ☐ 1.右 ☐ 2.左 ☐ 3.両側 ☒ 7.側性なし ☐ 9.不明

膀胱

解答

⑨原発部位 大分類 膀胱、尿管、腎盂、尿道

詳細分類 C67.9 膀胱

⑩病理診断 組織型・性状 8130/2 乳頭状尿路上皮癌、非浸潤性

診断情報

⑪診断施設 ☒ 1.自施設診断 ☐ 2.他施設診断

⑫治療施設 ☐ 1.自施設で初回治療をせず、他施設に紹介またはその後の経過不明
☒ 2.自施設で初回治療を開始
☐ 3.他施設で初回治療を開始後に、自施設に受診して初回治療を継続
☐ 4.他施設で初回治療を終了後に、自施設に受診
☐ 8.その他

⑬診断根拠 ☒ 1.原発巣の組織診 ☐ 2.転移巣の組織診 ☐ 3.細胞診
☐ 4.部位特異的腫瘍マーカー ☐ 5.臨床検査 ☐ 6.臨床診断 ☐ 9.不明

⑭診断日 ☒ 0.西暦 ☐ 1.明 ☐ 2.大 ☐ 3.昭 ☐ 4.平 ☐ 5.令 2025 年 1 月 6 日

⑮発見経緯 ☒ 1.がん検診・健康診断・人間ドックでの発見例 ☐ 3.他疾患の経過観察中の偶然発見
☐ 4.剖検発見 ☐ 8.その他 ☐ 9.不明

進行度

⑩進展度・治療前

- ☒ 400.上皮内 ☐ 410.限局 ☐ 420.領域リンパ節転移
☐ 430.隣接臓器浸潤 ☐ 440.遠隔転移
☐ 777.該当せず ☐ 499.不明

膀胱

解答

⑪進展度・術後病理学的

- ☒ 400.上皮内 ☐ 410.限局 ☐ 420.領域リンパ節転移
☐ 430.隣接臓器浸潤 ☐ 440.遠隔転移 ☐ 660.手術なし・術前治療後
☐ 777.該当せず ☐ 499.不明

自施設初回治療

観血的治療

⑫外科的

- ☐ 1.自施設で施行 ☒ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明

⑬鏡視下

- ☐ 1.自施設で施行 ☒ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明

⑭内視鏡的

- ☒ 1.自施設で施行 ☐ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明

⑮観血的治療の範囲

- ☒ 1.腫瘍遺残なし ☐ 4.腫瘍遺残あり ☐ 6.観血的治療なし ☐ 9.不明

その他治療

⑯放射線療法

- ☐ 1.自施設で施行 ☒ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明

⑰化学療法

- ☐ 1.自施設で施行 ☒ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明

⑱内分泌療法

- ☐ 1.自施設で施行 ☒ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明

⑲その他治療

- ☒ 1.自施設で施行 ☐ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明

⑳死亡日

- ☐ 0.西暦 ☐ 1.明 ☐ 2.大 ☐ 3.昭 ☐ 4.平 ☐ 5.令 年 月 日

備考

C67.9膀胱(側壁、後壁、前壁) Non-invasive papillary Urothelial carcinoma , low grade , pTa、BCG膀胱内注入

膀胱 44歳 男性

解説

2024/12/05 健診の尿細胞診で疑陽性、
2024/12/20 膀胱癌疑いで当院紹介受診

膀胱は
側性のない
臓器

2025/01/06 当院初診 尿細胞診施行
結果：urothelial carcinoma, 陽性
1/20 MRI：腫瘍は膀胱内にとどまっている
腎尿管に明らかな占拠病変なし
1/22 膀胱鏡：Papillaryな腫瘍が多数

診断：Ta（＝上皮内癌）の膀胱癌
治療：TUR-BtとBCG膀胱内注入を行う

内視鏡的治療 その他の治療（免疫療法）

2025/02/05 入院でTUR-BtとBCG膀胱内
注入施行

病理報告 Non-invasive papillary urothelial
carcinoma , low grade , pTa

膀胱側壁、後壁、前壁からTURを施行。
腫瘍は全て非浸潤性のpapillary UC。
断端は全て陰性。

Ta : 8130/2
Tis : 8120/2
の組み合わせ
になるよう登
録する

発見経緯：1. がん検診
初診日：2025/01/06 = 診断日 2025/01/06

検査 尿細胞診（3. 細胞診）→尿路上皮癌
MRI（5. 臨床検査）
膀胱鏡（5. 臨床検査）

治療開始前までにがんと
診断した検査のうち、最
も確かな検査の施行日

診断施設：1. 自施設診断
治療施設：2. 自施設で初回治療を開始

診断根拠 1. 原発巣の組織診
“患者の全経過を通じて”
がんと診断した最も確かな検査

初回治療 内視鏡的治療：1. 自施設で施行
その他の治療：1. 自施設で施行
観血的治療の範囲：1. 腫瘍遺残なし

局在コード：C67.9膀胱 側性：7. 側性なし
形態コード：8130/2 乳頭状尿路上皮癌、非浸潤性

進展度・治療前は、TUR-Bt後で確定する。
進展度・術後病理学的＝進展度・治療前

進展度・術後病理学的：400. 上皮内
＝進展度・治療前：400. 上皮内

腫瘍の種類

⑧側性 ☐ 1.右 ☐ 2.左 ☐ 3.両側 ☒ 7.側性なし ☐ 9.不明

悪性リンパ腫

解答

⑨原発部位 大分類 悪性リンパ腫

詳細分類 C77.0 頭部、顔面及び頸部のリンパ節

⑩病理診断 組織型・性状 9663/3 ホジキンリンパ腫、結節硬化型

診断情報

⑪診断施設 ☒ 1.自施設診断 ☐ 2.他施設診断

⑫治療施設 ☐ 1.自施設で初回治療をせず、他施設に紹介またはその後の経過不明
☒ 2.自施設で初回治療を開始
☐ 3.他施設で初回治療を開始後に、自施設に受診して初回治療を継続
☐ 4.他施設で初回治療を終了後に、自施設に受診
☐ 8.その他

⑬診断根拠 ☒ 1.原発巣の組織診 ☐ 2.転移巣の組織診 ☐ 3.細胞診
☐ 4.部位特異的腫瘍マーカー ☐ 5.臨床検査 ☐ 6.臨床診断 ☐ 9.不明

⑭診断日 ☒ 0.西暦 ☐ 1.明 ☐ 2.大 ☐ 3.昭 ☐ 4.平 ☐ 5.令 2025 年 1 月 14 日

⑮発見経緯 ☐ 1.がん検診・健康診断・人間ドックでの発見例 ☐ 3.他疾患の経過観察中の偶然発見
☐ 4.剖検発見 ☒ 8.その他 ☐ 9.不明

進行度

悪性リンパ腫

解答

⑩進展度・治療前

- ☐ 400.上皮内 ☐ 410.限局 ☐ 420.領域リンパ節転移
☒ 430.隣接臓器浸潤 ☐ 440.遠隔転移
☐ 777.該当せず ☐ 499.不明

⑪進展度・術後病理学的

- ☐ 400.上皮内 ☐ 410.限局 ☐ 420.領域リンパ節転移
☐ 430.隣接臓器浸潤 ☐ 440.遠隔転移 ☒ 660.手術なし・術前治療後
☐ 777.該当せず ☐ 499.不明

自施設初回治療

観血的治療

⑫外科的

- ☐ 1.自施設で施行 ☒ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明

⑬鏡視下

- ☐ 1.自施設で施行 ☒ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明

⑭内視鏡的

- ☐ 1.自施設で施行 ☒ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明

⑮観血的治療の範囲

- ☐ 1.腫瘍遺残なし ☐ 4.腫瘍遺残あり ☒ 6.観血的治療なし ☐ 9.不明

その他治療

⑯放射線療法

- ☐ 1.自施設で施行 ☒ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明

⑰化学療法

- ☒ 1.自施設で施行 ☐ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明

⑱内分泌療法

- ☐ 1.自施設で施行 ☒ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明

⑲その他治療

- ☐ 1.自施設で施行 ☒ 2.自施設で施行なし ☐ 9.施行の有無不明

⑳死亡日

- ☐ 0.西暦 ☐ 1.明 ☐ 2.大 ☐ 3.昭 ☐ 4.平 ☐ 5.令 年 月 日

備考

Classic Hodgkin lymphoma , nodular sclerosis、
病期＝ⅡE

悪性リンパ腫 26歳 女性

解説

2024/12/26 左頸部腫脹を自覚し、近医を受診。
超音波検査（5. 臨床検査）→
左頸部のリンパ節腫脹
リンパ腫疑いで、当院血液内科へ紹介。

2025/01/08 当院初診。
発熱、体重減少などの症状なし
リンパ節腫脹（6. 臨床診断）→
左頸部に拇指頭大、右頸部に小指頭大

2025/01/14 頸部超音波検査（5. 臨床検査）
→腫大リンパ節あり
左頸部3cm大、右頸部1cm
頸部リンパ節生検施行
（1. 原発巣の組織診）

2025/01/20 全身Gaシンチグラム（5. 臨床検査）
→両腋窩、両肺野にHotspotを認め、
リンパ腫の侵襲と考えられる

左右腋窩は、
1領域と考える。

側性のある節外性臓器の両側病
変は、1臓器の病変として扱う。

発見経緯：8. その他
当該腫瘍初診日：2025/01/08

検査（治療開始前まで）

2024/12/26 超音波検査（5. 臨床検査）
2025/01/08 臨床診断（6. 臨床診断）
2025/01/14 超音波検査（5. 臨床検査）
2025/01/14 頸部リンパ節生検
（1. 原発巣の組織診）
2025/01/20 ガリウムシンチグラム（5. 臨床検査）

診断日：2025/01/14
診断施設：1. 自施設診断

症状：症状なし

進展度・治療前：430. 隣接臓器浸潤
…頸部リンパ節原発・1領域と1部位に侵襲
→Ann Arbor 分類 **II E**

治療開始前までにがん
と診断した検査のうち、最
も確かな検査の施行日

2領域以上のリンパ節の腫脹が、横隔膜を境界として、
片側（上下どちらか）にある

悪性リンパ腫 26歳 女性

解説

2025/01/22 診断：頸部リンパ節原発
ホジキンリンパ腫

2025/01/28 外来で化学療法開始。

【病理報告(頸部リンパ節生検)】

Classic Hodgkin lymphoma , nodular
sclerosis

治療施設：2. 自施設で初回治療を開始

初回治療：化学療法：1. 自施設で施行
観血的治療は施行していない

観血的治療の範囲：6. 観血的治療なし

進展度・術後病理学的：
660. 手術なし又は術前治療後

局在コード：C77.0 頭部、顔面及び頸部のリンパ節

側 性 ：7. 側性なし（側性のない臓器）

形態コード：9663/39 ホジキンリンパ腫、
結節硬化型

悪性リンパ腫 26歳 女性

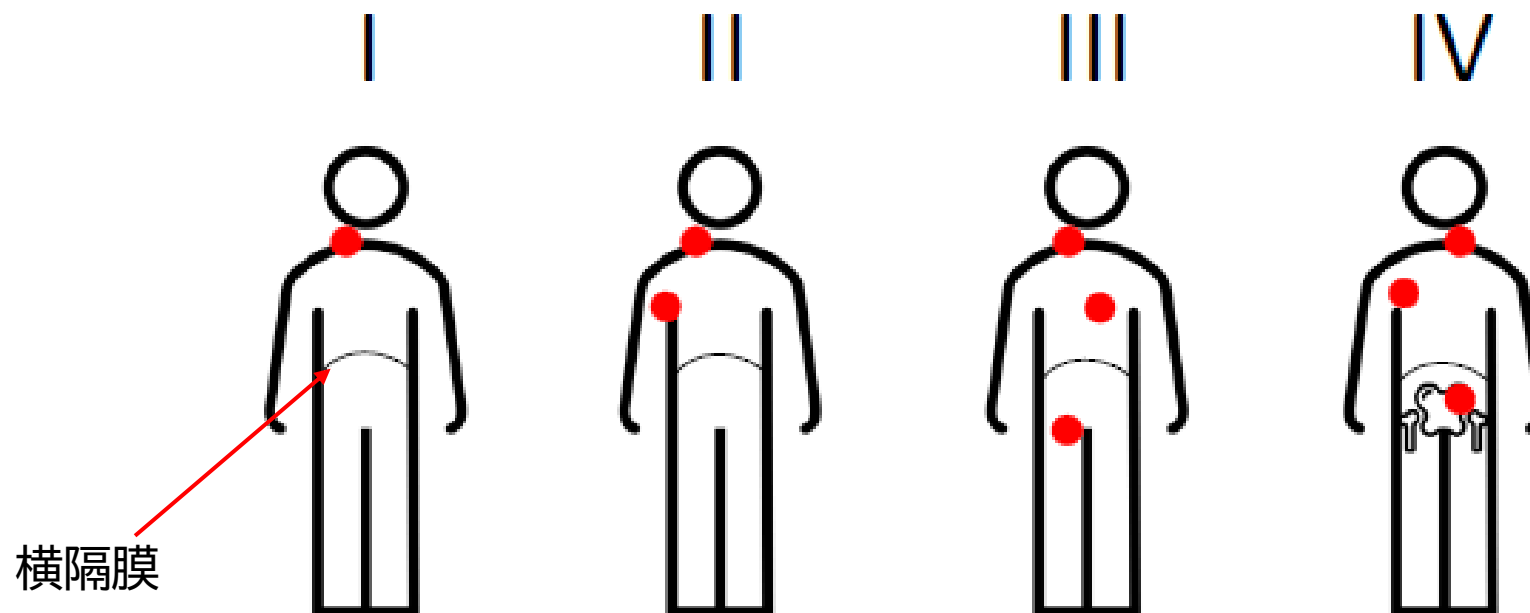
解説

進展度	Ann Arbor 分類	
	アン アーバー	
410. 限局	I 期	1 領域のリンパ節の腫脹が、1つの領域にとどまっている
430. 隣接臓器浸潤	II 期	2 領域以上のリンパ節の腫脹が、横隔膜を境界として、片側（上下どちらか）にある
440. 遠隔転移	III 期	2 領域以上のリンパ節の腫脹が、横隔膜を境界として、両側（上下とも）にある
440. 遠隔転移	IV 期	リンパ節以外の臓器に、びまん性 または 多発性の病変 がある

悪性リンパ腫 26歳 女性

解説

病期分類(Ann Arbor分類)



病期の表記方法:

脾臓(S)に侵襲あり・・・病期+s I s期など

脾臓以外の臓器に侵襲あり・・・病期+E II E期など

悪性リンパ腫 26歳 女性

解説

解説

【 リンパ節領域 】 以下の領域は、それぞれ『1領域』と考える。

・左右頸部	・左右腋窩	・左／右 鎖骨下
・縦郭	・左／右 肺門	・傍大動脈
・腸間膜	・左／右 腸骨	・左／右 鼠径大腿
・左／右 滑車上	・左／右 膝窩	

【 リンパ節性病変 】 以下の部位は、『リンパ節病変』として扱う。

・Waldeyer(ワルダイル)輪	・胸腺	・脾臓
-------------------	-----	-----

- ※ 隣接臓器への直接的な浸潤は、分類に影響しない。
- ※ 非連続的に存在する消化管の2臓器／2部位に及ぶ病変は、IV期に分類する。
- ※ 側性のある節外性臓器の両側病変は、1臓器の病変として扱う。
- ※ 節外性臓器の病変が単一臓器に限って、複数存在(同一臓器の多発病変)する場合は、I期と扱う。



- ・この症例は登録対象になるの？
- ・形態コードはどれを選択したらいい？
- ・GTOLでの届出方法がわからない・・・

ご不明なことがあれば、
お気軽におたずねください。

公益財団法人兵庫県健康財団 がん登録室
〒651-2103 神戸市西区学園西町6丁目3-1
TEL 078-793-9340 (平日9時～17時)
E-mail : h-gantouroku@kenkozaidan.or.jp